

経営比較分析表（令和6年度決算）

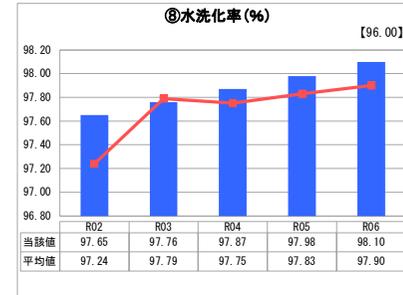
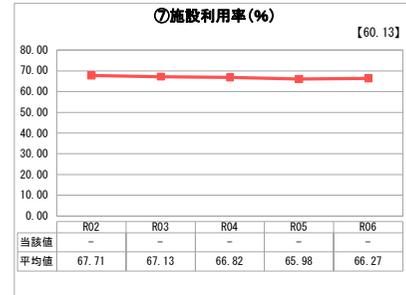
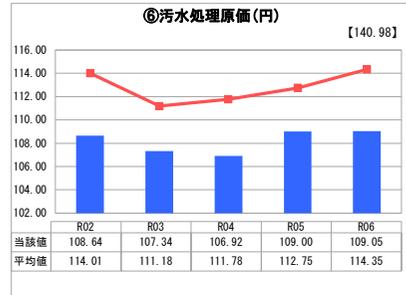
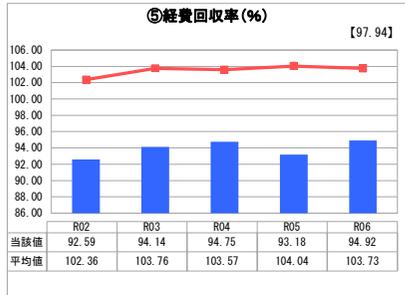
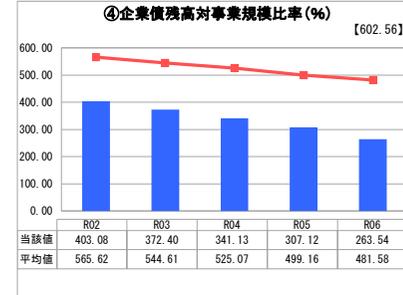
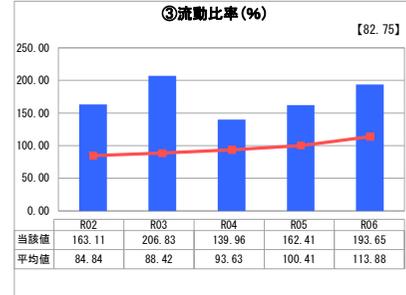
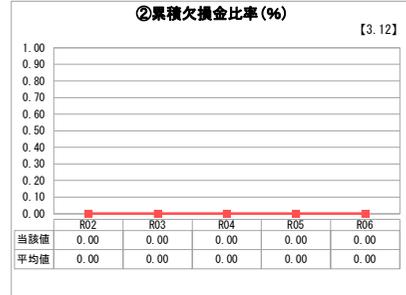
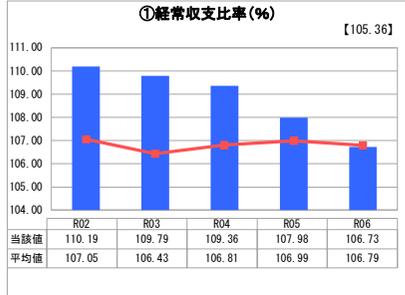
埼玉県 入間市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ab	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ^a 当たり家庭料金(円)
-	85.57	88.71	90.88	1,815

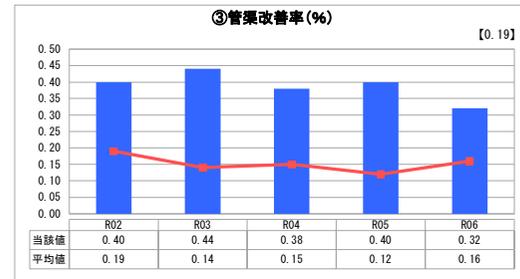
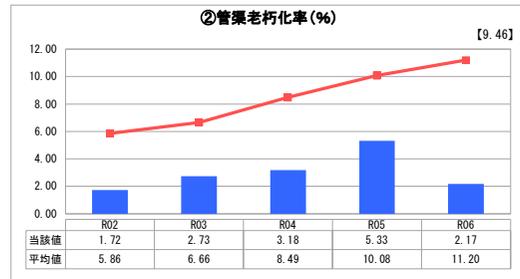
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
143,412	44.69	3,209.04
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
126,749	16.08	7,882.40

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
[] 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率
100%を超えており財政的な健全性は高い。今後も入間市下水道事業中長期経営計画に基づき、適正な使用料等の確保に努める。

② 流動比率
今年度も100%を上回り、短期的な負債を現金等で賄うことができるだけの支払能力を保持している。しかし、今後は管路施設の修繕、改築、耐震化等が予定されており、現金の減少が見込まれるため、引き続き自己資金の確保に努めていく。

③ 経費回収率
昨年度に比べ増加しているものの、100%を下回っており、厳しい状況にあるが、令和8年度に使用料の改定を予定しており、経費回収率は100%を超えることが見込まれている。

④ 企業債残高対事業規模比率
類似団体及び全国平均値を下回っている。今後も投資規模と企業債のバランスを考慮し、過大とならないよう努めていく。

⑤ 汚水処理原価
類似団体及び全国平均を下回っており、効率性は高い。今後、管渠等の修繕が増加する傾向にあるため、汚水処理原価の上昇に留意する必要がある。

⑥ 水洗化率
全国平均を上回っており、微増傾向で推移していることから、良好な数値といえる。今後も普及促進に努めていく。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率
現時点では類似団体及び全国平均値を下回っているものの、数値が年々上昇している。

② 管渠老朽化率
昭和42年に管渠の布設を開始してから57年が経過した。埋設後40年を経過したものが約2割、30年経過したものが約3割、残りの約5割が30年未満のものである。今後、法定耐用年数を経過する管渠が急激に増加することが予想される。なお、令和6年度に管渠老朽化率が大幅に減少した理由は、管渠の改築・更新延長を、令和6年度より反映させたためである。

③ 管渠改善率
昨年度に比べ減少しているが、類似団体及び全国平均値を上回っている。今後も、計画的な更新投資を図っていく。

全体総括

経営の健全性・効率性については、流動比率が今年度においても100%を超えるなど支払能力が確保された。一方で、経費回収率は依然として100%を下回る状況が続いている。今後、人口減少等による使用料収入の減収が見込まれる中、下水道施設は維持管理の時代を迎え、修繕、改築等の事業費が増加する傾向にある。しかし、令和8年度より使用料の改定を行う予定であり、それに伴い経費回収率も100%を超える見込みである。

引き続き、下水道サービスの水準を低下させることなく、安定的な事業を継続していくため、平成29年度から10年間の計画期間として策定した「経営計画」に基づいた事業運営に努めていく。

* 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。